

平成 23 年 3 月 23 日
メディアスエフエム番組審議会事務局

メディアスエフエム第 22 回番組審議会 議事録

1. 開催日時

平成 23 年 3 月 23 日（水）16 時 00 分から 17 時 00 分

2. 開催場所

知多メディアスネットワーク(株)3 階すいせん西会議室

3. 出席者 ※敬称略

委員) 紀藤 輝明、加藤 龍子、小島 幹子、寺島 賀子、林 繁八、早川 鉄三
以上 6 名

※近藤委員は欠席

事務局) 河井 貞一（代表取締役常務）、山本 隆明（コンテンツ部副部長）、
松山 崇臣（コンテンツ部編成企画G）

4. 議事内容

(1) 報告事項・・・事務局

① 2 月、3 月の活動報告

② 4 月番組改編

③ 今後の予定

(2) 活動報告、番組について審議・・・委員

5. 審議内容

○災害放送についてのご意見

小島委員／震災の後、防災面でのメディアの役割について真剣に考えた。TV と FM を両方つけたが、内容に物足りなさを感じた。情報の正確さ、東海市としての動きが良く分かった。メディアスエフエムとしては、東海市で地震が起こった場合、どのような放送内容になるのか。

事務局／メディアスエフエムでは東海市と防災協定を結び、東海市からの指示で通常放送と緊急放送を区別して放送している。市役所と消防本部に緊急の割り込み装置を設置し訓練を行っているので、メディアスエフエムのスタッ

フでなくとも緊急放送が行える体制を取っている。また、来年度以降は J-ALERT の音声信号を防災ラジオを起動した上で割り込ませる仕組みも整う。以上が災害時の主な初動放送に対する備えである。今回の震災に対しては、姉妹都市への緊急援助・復興サポートに関する情報をお伝えして、これは今後も継続していきたい。また、地震に対する備えとしては、建物・人的準備も整っており、情報を入手する仕組みも出来上がっている。

紀藤委員／災害時におけるマニュアルはあるのか。今回の地震の時に防災ラジオの緊急起動は行ったのか。

事務局／災害時の連絡網・アナウンスマニュアルなどは準備済み。社全体としても有事に対する準備を進めている。今後日本全体でも災害対策の見直しが行われるであると予測しているので、そこに合わせて準備を進めていきたい。また、コミュニティエフエムの存在も見直され、責務が重いと感じているので、先輩局に色々と学ぶ必要があると考えている。防災ラジオの起動については、この地域での震度が 3、4 だったので行っていない。今後は通常の放送を通じてメディアスと関わっている皆さんからの情報提供や連携を有事に活かしたい。そういった面も含め、多くの方にご出演いただきたい。

○リスナーの反響・番組内容についてのご意見

林委員／ラジオ全体に言えることだが、リスナー数の増加が大きな課題。メディアスエフエムでのリスナーからの反響が良く分からない。隔年なりでリスナー数や番組内容に対する評価を行うべきではないか。

事務局／テレビと同時ではあるが、定点観測は自社でも行っている。その他、市や市民大学にも協力していただきアンケート調査を行っているが、未だリスナー数の実態が掴めておらず課題だと感じている。

林委員／定量、実感値で委員も含め評価できると良い。

加藤委員／番組内容をもっともっとローカル色にする必要がある。東海市民にとって有益でなければ意味が無い。現在の番組内容の形式はきれいだが、インタビューなどはその現場でなければ聞けないことを聞くべきではないか。もっと外に出て行けば、突拍子もない発見がある可能性がある。

寺島委員／ラビットマンショーのウォーク・イン・東海市に一般人が出ると面白い。

事務局／すぐに全てを実現するのは難しいが、少しずつ対応していきたい。

次回開催は平成 23 年 5 月 25 日（水）を予定。

以上

文責：コンテンツ部 松山 崇臣